
原色ではない色に

快丈凪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

原色ではない色に

【著者名】

N4195A

【作者名】

快文風

【あらすじ】

私が口頭考へてゐることを詩にしました。

私が無くしちゃったモノ。

それは個性。

髪をストレートにして、

流行りの服を着て、

化粧をし、

歯の見ているドラマを見て、

当たり前の様に携帯電話を持ち、

立たず、

暗すぎず、

適度に頷き、

笑顔をしてみせ、

友達について歩く。

やつてみたいと思つても、
友達がしなければ出来なくなり、

友達が嫌な事は、

自分が好きでもやらない。

そして、ふと、

自分の事が分からなくなる。

確かに、

一人だけ違うのは、

怖いし、

恥ずかしいし、

目立つし、

大変だ。

それよりは皆と同じなら、

楽だし、

平気だし、

怖くない。

でも……本当にそうだろうか？

皆が同じ格好をして、

同じ態度を取り、

同じ考え方をするなら、

この地球上に、

なぜ60億もの人たちが必要なのだろう？

一人でいいのではないか？

でもナゼか、

私たちには気づいたらしくに居た。

考えてみれば理不尽な話だが、

今、この世に存在しているなら、

仕方ない。

とりあえず生きてみる。

沢山のモノに対して、

一人はあまりに無力で、

ちっぽけで、

弱々しい。

そんな世の中だから、

人のマネをするのも、

流れてしまつのも、

しょうがないつて思つ。

だつたら、

私だつたら、

流れながらも、

自分を少し、

ほんの少し、

皆が分からぬいくらい少し、

主張できたらと思ひ。

皆初めは、

眩しきぐらゐの白れを持つてゐるとして、

成長するにつれて、

色々な色に染まつていへ。

その時例えば、

沢山の人が、

チユーブから出した、

原色の青になりたいと、

自分の色を青に近づけ、

中には完全に染まり、

私もそれに巻き込まれたとしても、

原色ではなく、

それに少しあを加え薄くしたり、
ちょっとだけ、

黄色を足してみたりして、

よく見比べなければ分からぬ様な、

でも原色でない青になりたい。

私が無くしちゃつたモノ、

それは私。

真つ白な所に色を塗りつとしていた、

あの頃の私。

私が手にいれたモノ、

それは、

周りと同じ様で違う自分になりたいと、

気づいた私。

そう気づけた心。

(後書き)

初めて詩を書きました。改行が多くた気もしますが、雰囲気を出す為に今回はこの形にしました。もし、私と同じ考え方を持っている方に共感して頂ければ幸いです。ここまで読んで下さりありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4195a/>

原色ではない色に

2010年10月28日04時26分発行